

敬和会と地域をつなぐ広報誌【リンク】

Link

vol.05 秋号

take free

ご自由にお持ち帰りください



特集
敬和会の新たな仲間、佐伯保養院
患者さんと「伴走」する精神科病院





| 敬和会の新たな仲間、佐伯保養院 | 特集 |

患者さんと「伴走」する 精神科病院

1950年に精神衛生法が施行され、精神科病院が全国各地に開設されるようになりました。当時は偏見と貧困のため十分な治療が受けられる状況ではなく「出稼ぎに行っている…」と近所には話し、※措置入院制度を利用して医療費の負担を軽減するといった状態が常態化していました。

佐伯保養院は1956年に単科の精神科病院としてスタートしました。当院では1968年より行動制限の改善として「措置入院解除」、経済的負担の軽減として「障害年金の受給」に取り組み、家族への負担を軽くし、時間をかけて治療ができる環境づくりを進めてきました。

一方で精神疾患への理解を深め、保護的治療（強制的な入院治療）→インフォームドコンセント（治療内容を説明し、患者さんの理解と同意を得た治療）→アドヒアランス（患者さんが積極的に治療方針の決定に参加する治療）へと自主的に治療をするように取り組んできました。精神科治療では



佐伯保養院 院長 廣瀬 就信

「主役」は本人・家族であり、我々医療従事者は「伴走者」であるとの考えで職員全員が取り組んでいます。

近年、高齢化の影響で身体合併症の患者さんが増加しています。単科の精神科病院・精神科医だけでなく、精神と身体を共同で治療できる場所が将来的に必要となってくるのではないかと考え、2016年7月に敬和会の仲間入りをしました。どうぞよろしく願いいたします。「不安と絶望」を抱えて訪れた人が「生きる勇氣と希望」を持つて帰っていく地域医療機関を目指します。

※措置入院制度・自分を傷ついたり、他人に被害を与えるおそれのある患者さんを強制的に入院させること。医療費は公費負担となる。





敬和会の新たな仲間、佐伯保養院 | 特集 |

一人一人に合った入院治療

近年、4大疾病（がん、脳卒中、心臓病、糖尿病）に精神疾患が加わり「5大疾病」とする方針を国が決定し、重点的に取り組まれるようになってきました。

精神疾患は、本人の同意なく入院させられるイメージが強いかもしれませんが、実際には患者さんの人権の観点から入院に関して細かい法律の規定があり、患者さんが自分で希望して入院する治療が中心となっています。入院治療は、ストレスのかかる状況から離れて、安全な環境のもとで治療に専念できるのがメリットです。当院には3つの病棟があり、患者さんの症状に合わせた入院治療を行っています。

A病棟（認知症治療病棟）60床

認知症に伴って現れる精神症状（妄想・幻覚・興奮など）や行動障害（徘徊・暴力・介護抵抗・睡眠障害など）のため、ご自宅や施設での対応が困難となった患者さんを受け入

れ、認知症への専門的なケアを行います。

B病棟（精神療養病棟）60床

急性症状の段階的治療により症状が安定した患者さんや、長期入院による治療・療養が必要な方が、短期間で家庭や社会に復帰できるように、日常生活指導や対人関係を中心とする社会生活に必要な技能を高めるプログラムを積極的に取り入れています。

C病棟（精神一般病棟）60床

急性症状を繰り返したり、中長期にわたる段階的治療を必要とする精神障害者の方の治療を行っています。

四季とともに伴走

入院治療の一環として、四季それぞれに患者さんとともに過ごす行事を行い、ご家族にも参加していただいています。

春はお花見。病院中庭にある樹齢50余年の桜が満開になり、その桜を患者さんと職員で囲んで、おいしいお弁当を食べます。お弁当は栄養課の手作りです。



コグニサイズ（認知課題を組み合わせた運動）で脳を活性化！

夏は盆踊り。屋外運動場に樽を立て、みんなで輪になり踊ります。太鼓を叩いて音頭を取るのには腕自慢の職員です。フィナーレは花火大会。目の前で見える打ち上げ花火は圧巻です。



秋は運動会。若い人は若い人なりに、お年寄りはお年寄りなりに、それぞれが参加できる競技を準備しています。患者さんと職員が一緒に心地よい汗を流します。

冬はクリスマス会。院長と副院長の2人がサンタクロースになって活躍します。職員はこの日のために練習した歌や踊りを披露します。患者さんはおやつのかき氷を楽しまれています。

命を救え！ドクターカー

テレビドラマでも取り上げられ注目される『ドクターカー』。
大分岡病院では平成21年11月に導入し、救急の現場にいち早く駆けつけ、地域の救急医療に貢献しています。さらに平成28年度より、大分市とドクターカー運用に関する協定書を交わし、大分市消防局（救急車）とともに地域住民の救命に努めています。

救急車とドクターカー

救急車は、けがや病気で緊急に治療が必要な場合に患者さんを病院に搬送する車両です。一方、ドクターカーは、医師・看護師等の医療スタッフと医療資機材や医薬品を乗せて、救命に必要な患者さんがいる現場に向かい、救急医療を行う特殊な車両です。市民からの119番通報で、生命の危機が迫っている場合などに、大分市が作成したドクターカー要請基準に従って、大分市消防局救急司令室から、大分岡病院の救急科医師に直接ドクターカー出動要請の連絡が入ります。

ドクターカー出動！

「ドクターカー要請！関係者は至急※ERへ」の放送が院内に鳴り



響きます。直ちに担当スタッフ全員がERに集まる合図です。すぐさま出動準備を行い、2分以内で出動。救急現場へ急行します。

現場では、先に到着した救急救命士が電話で急行中の医師の指示に従い、※静脈路確保や※気管内挿管を行うなどの救命活動を遂行しています。ドクターカーが到着すると、救急救命士と医療スタッフが協力し、病院の救急室ながらの医療処置が行われます。



現場急行中のドクターカー車内の様子

消防局との連携を強化

救急隊に加え、医療チームが現場に出動することで、マンパワーの確保ができるほか、現場での安定した治療、傷病者の接触から病院収容の連携がスムーズに行えます。

また、医師が救急車に同乗することで、現場から病院まで継続した医療行為の提供や、搬送した医療機関での医師同士の引き継ぎなどが円滑に行えるというメリットもあります。現場に医師がいることで、患者さんやご家族から安心できるといふ声も挙がっています。

現在、大分市消防局と協力して、年2回「大分東救急カンファレンス」を開き、地域の医療機関とともに救急症例などの報告や検証を行っています。

今後も消防機関と顔の見える関係を構築し、プレホスピタル（病院前救護）の連携を強化して、切れ目のない医療連携で、地域住民の命を救い、守ることに努めていきます。

心に寄り添い、思いに応える看護

回復期リハビリテーション病棟には、脳血管障害や認知症、骨折などの病気やけがでリハビリを必要とする患者さんが入院しています。患者さんに24時間寄り添う看護師は、患者さんの思いに向き合い、その人の希望に沿った退院後の生活が実現できるように支援を行っています。

在宅復帰を巡る葛藤

患者さんの目標は、退院して自宅へ帰ることですが、すべての患者さんが必ず在宅復帰できるとは限りません。重度の障害がある場合は、意思疎通が困難であったり、体の麻痺が改善されないこともあ



ります。また、看護師を始めとしたスタッフが、体調管理を24時間行う入院中とは異なり、自宅ではご家族が、栄養管理や更衣、日中・夜の体位変換、排泄処理などの介護を行うことになるため、慣れない自宅での介護で困ることはないか、介護疲れを起こさないかなどの心配ごとが浮上します。

看護師の視点からは、退院後に在宅復帰することは厳しいと考え、自宅に帰りたいという患者さんの思いとの間で葛藤することもあります。

思いを受け止め、最善の形へ

脳梗塞を発症し、障害が残ったある患者さんのケースでは、今すぐ在宅復帰するのは難しいため、

た。最終的に、ご家族は介護の自信をつけ、在宅復帰を果たすことができたのです。

一番近くで見守る存在

今年の10月より回復期リハビリテーション病棟を増床し、より多くのリハビリを必要とする患者さんを受け入れることができるようになりました。患者さんを一番近くで見守る看護師は、「患者さんの心に寄り添い、思いに応える看護」をモットーに、安心できる入院生活と在宅復帰を支援していきます。

看護師は介護施設へ入所することを提案しましたが、ご家族は自宅での介護を強く望まれました。看護師は患者さんとご家族の思いを受け止め、多職種スタッフと協力し、在宅復帰ができる最善の方法を模索しました。

まず、訪問診療や訪問看護などの在宅医療サービスや、自宅用の介護機器を紹介し、自宅で介護できる環境を整えてもらいました。

さらに、病院の一室を利用して、ご家族が患者さんと一緒に寝泊りし、自分たちだけで介護を行う「滞在訓練」を受けてもらいました。最初は看護師がサポートしながら一通りの介護を行い、その後はナースコールに頼らず、ご家族ができる限りの対応をしてもらうことで自宅介護の練習を行ったのです。看護師は問題が発生したときに備えて近くで見守りをしました。

介護に慣れたら、一晩自宅に帰り、看護師がいない状況での介護や体調管理を実践してもらいます。そこで新たに問題が発生すれば、ご家族とともに改善点を探り、できるだけ万全な状態で自宅へ戻れるように模索を繰り返しまし



多職種スタッフで相談しながら患者さんの在宅復帰を目指します

めざせ！在宅支援強化型 通所リハビリテーション

利用者さんの日常生活での活動性を高め、社会参加を目指して重点的に支援する通所リハビリテーション（通所リハビリ）を「在宅支援強化型通所リハビリ」といい、これからの通所リハビリの主流になります。大分豊寿苑では、医師を中心に多職種が連携することで、「活動」と「参加」に焦点を当て、在宅支援強化型通所リハビリの提供を目指しています。



「買い物に行きたい」という利用者は、歩行訓練で近くのコンビニへ

自ら社会参加

利用者さんの社会参加を促すために、「リハビリをしてほしい」とご家族に言われたから通所リハビリに行くという受け身の視点ではなく、「自分で買い物に行きたい！」といった自発的な視点に基づく目標を持つていただけるよう、働きかけることから始めます。そして、その目標を多職種スタッフが共有し、利用者さん一人一人のリハビリ意欲を促すことで、生活の質が高まり、自主的に社会参加することにつながります。

多職種連携で活動を促す

ご家族との話し合いの際には、不安や心配ごとを解決するため

に情報共有の場を多く持つようにしています。一緒に暮らしている家族でも、利用者さんのすべての能力を理解することは困難です。スタッフが多様な場面で利用者さんと関わることで、家族も気づかなかった能力を発見することが出来ます。

ある利用者さんは、介助がないと転倒してしまうという不安から自宅では入浴せず、通所リハビリのときにだけ入浴をしていました。しかし、普段から介護を行っているスタッフが、リハビリをすれば一人でも十分に入浴できるようなることに気づきました。その情報をご家族やリハビリスタッフ等と共有し、自宅での動作確認や訓練につながりました。その結果、週一回家族の見守りのもと、自宅で入浴ができるようになったという事例もあります。

利用者さんの思いをかなえる

高齢になり身の回りのことに手助けが必要になっても、利用者さん本人が「こうありたい」という気持ちを共有することで、でき

ることを増やし、利用者さんの思いをかなえることができます。これからも利用者さんの活動と社会参加を促し、在宅支援強化型通所リハビリで、その人らしい暮らしを支援することを目指します。



リハビリ会議では多職種の関係者が集まり、ご家族と情報共有をします



秋鮭の混ぜ寿司

敬和会管理栄養士の
とっておき
レシピ

【材料】4人分

ご飯(炊きたて)	3合	卵	2個	キュウリ	2本
秋鮭(有塩)	4切れ	酒	少々	塩	小さじ1
酒	小さじ4	(A)塩	少々	かぼす果汁	120cc
		砂糖	小さじ2	(B)砂糖	小さじ4
				白ごま	お好みでトッピング

1人分使用量 エネルギー464kcal/塩分2.0g

【作り方】

- 耐熱容器に卵を割りほぐし(A)と混ぜ合わせ、電子レンジで1分加熱する。菜箸で混ぜ合わせ、再び1分加熱して混ぜ炒り卵にする。加熱が足りなければさらに1分レンジにかける。
- キュウリは薄い輪切りにし、塩でもみ、水気が出てきたらさっと水洗いし水気を絞る。
- 鮭は焼き、ほぐして皮と骨をとり、酒をからめる。
- 炊きたてのご飯に1〜3と(B)をまぜて出来上がり。



【鮭】

鮭に含まれるEPA(エイコサペンタエン酸)、DHA(ドコサヘキサエン酸)は血中のコレステロールを抑えて血液の流れを良くし、動脈硬化や血栓、高血圧を予防します。

【かぼす】

かぼすには疲労回復に効果のあるクエン酸が豊富に含まれています。美容と健康に大切なビタミンCも豊富で、焼き物や揚げ物、鍋や汁物など幅広い料理に使える食材です。



合わせ酢の代わりに
かぼす果汁を使うことで
減塩にしています。



管理栄養士
高橋 綾奈さん

在宅支援クリニックすばる

敬和会が担う

「在宅医療のモデルケース」に向けて

患者さんの思いをくみ取り、細やかな支援を行う、在宅支援クリニックすばるの姫野院長と訪問看護ステーションの佐々木部長に、在宅医療のこれからについて語ってもらいました。

「これからの在宅医療に必要なものは？」

姫野 今後増加してくる在宅医療

のニーズに応えるスキルを身につけることが課題です。今までは、在宅というところが患者さんの終末期に重きが置かれていましたが、がん以外の患者さんや高齢者など、自宅で最期を迎えたいという方が増えてきています。病院での医療は、病気を治すことが目的ですが、これからの在宅医療は、本人やご家族の希望、思いに対し、どう応えていけるかが必要となります。

すばると同一建物内に訪問看護ステーションがあるというのは、非常に心強く、患者さんの近いところで同じ目標でチームとして動いていけるのは大きなメリットです。在宅医療の役割は、訪問看護だけでなく、訪問リハビリ、ヘルパー、病院・診療所

などが、地域の中でリンクしていき、患者さん、家族の思いをサポートすることです。

「敬和会の強みを地域の中で活かしていくには？」

佐々木 医療提供側は、制度や国が現在どういった方向に向かっていくか理解していますが、それが分らず取り残されるのは地域住民です。敬和会は、地域住民が最終的にどこで過ごしたいかを含め、在宅医療の提供や自分らしく生きるための生活支援の提案ができるのではないかと考えています。

姫野 在宅医療をしっかりと作り、地域の方や他の医療従事者から理解を得られないことには、地域に発信はできません。敬和会が在宅医療のモデルケースを提供していきたいと思っています。



在宅支援クリニック
すばる
姫野 浩毅 院長

大分豊寿苑
訪問看護ステーション
佐々木 真理子 部長



この街・この人

地域の高齢者は地域で支える！
高齢者の憩いの場「ふれあいカフェアイリス」を
主宰する園田さんにお話を伺いました。



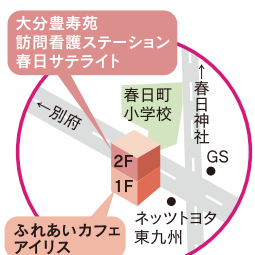
園田 やよいさん

公民館でカフェや歌声サロンを
開催。地区の健康推進委員とし
ても活動し、地域活動にまい進し
ている。



— カフェを始めたきっかけは？
公民館が現在の場所へ移転し
た際、公民館で地域活動をしま
せんかと勧められました。何かし
ないともつたいないと思ってい
たところ、誰からともなく「地域
の人が集まれるようにカフェをや
たらいいんじゃないか？」とい
う声が出たのがきっかけです。
カフェは自由参加とし、無理
強いをしないように心がけてい
ます。私も皆さんと一緒に楽し
く活動しています。毎回お手伝
いをしてくれる友人もいて本
当に感謝しています。

— 活動内容を教えてください。
第1から3週の水曜日はお茶
やお菓子を楽しむカフェや卓球
バレー、第4週は「ピアノの伴奏
で歌う歌の会」を行っており、誰
でも参加できます。みんなの歌
声を披露する場も作っているん



ふれあいカフェアイリス

大分市中春日38番地
日時 毎週水曜日13:00～16:00
料金 カフェ参加費100円



私のON TIME OFF TIME

頼れる地域のドクターの意外な一面！

阿南循環器内科クリニック

院長 阿南 太先生



笑顔がもたらす効用

デパートのエスカレーターに
乗ってふと横を向くと怖い顔
をした男が鏡に映っている。この男
は誰かと一瞬考える。それは自
分自身だったのである。患者さ
んに対してどういう顔で接して
いるのだろうかと不安がよぎる。

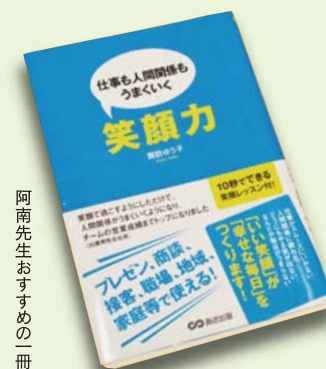
多くの患者さんにとって医者は
怖い存在だと耳にします。自
分の顔はもう少し何とかならな
いものか常々考えていると、書店
で名著に出会えました。

『仕事も人間関係もうまくい
く・笑顔力』（あさ出版）。諏訪ゆ
う子さんの本です。この本を読
んで、いかに笑顔の効果があるか
を知ることができました。笑顔
には元手がいらす、しかも効果

が絶大。与えても減らず、与えら
れたものは豊かになる。また、笑
いは免疫力アップ、心臓病、血糖
値改善、リウマチ、アトピー性疾
患等病気の回復にも有効である
と報告されています。

私が医師になった20数年前、
接遇は聞きなれない言葉でした
が、この10年間で接遇を始めコ
ミュニケーション力の重要性が
盛んに言われるようになりまし
た。さらに、我々医療人もこのこ
とを勉強する必要があると思っ
ています。

これからは生活習慣病（高血
圧症、心臓疾患、糖尿病、脂質異
常症）の治療を中心に、地域
の方々に信用・信頼される医療を
笑顔と共に提供できるよう努力
していきたいと思います。



阿南先生おすすめの1冊

阿南循環器内科クリニック

〒870-0128 大分市大字森582-1

TEL.097-521-1110

診療科目 循環器内科、糖尿病内科、内科

診療時間 月曜～水曜、金曜

9:00～13:00、14:30～18:00

木曜、土曜 9:00～13:00

休診日 木曜、土曜の午後、日曜日、祝日

社会医療法人敬和会



大分岡病院

大分岡病院 検索

〒870-0192 大分県大分市西鶴崎3-7-11
TEL.097-522-3131(代)
TEL.097-503-5033(コールセンター)
FAX.097-503-6606
<http://www.oka-hp.com>



大分東部病院

大分東部病院 検索

〒870-0261 大分県大分市志村字谷ヶ迫765番地
TEL.097-503-5000(代) FAX.097-503-5888
健診センター TEL.097-503-5918
<http://www.oitahobu-hp.net/>



介護老人保健施設 大分豊寿苑

大分豊寿苑 検索

〒870-0131 大分県大分市皆春1521番地の1
TEL.097-521-0110 FAX.097-521-1247
<http://www.hojuen.jp/>



在宅支援クリニック すばる

敬和会すばる 検索

〒870-0147 大分県大分市小池原1021
TEL.097-551-1767 FAX.097-551-1722
<http://www.zaitaku-subar.com/>



佐伯保養院

佐伯保養院 検索

〒876-0814 大分県佐伯市東町27番12号
TEL.0972-22-1461 FAX.0972-22-3063
<http://www.saikihoyouin.com/>



本場鶴崎踊大会で入賞！
450年以上の歴史と伝統をもつ「選択無形民族文化財」本場鶴崎踊。8月20日(土)、今年も敬和会より27名の踊り子が出場し、地域の皆さんと一緒に踊りを楽しめました。練習の成果もあり「OCT大分ケーブルテレコム賞」を受賞しました。



佐伯保養院秋の大運動会！
毎秋、佐伯保養院では患者さん、ご家族、職員が一緒になって大運動会を行っています。今年も10月16日(日)に院内の多目的グラウンドで元氣よく、楽しく運動しました。ストレス解消し、気分をリフレッシュする一日になりました。

「スウェーデン・クオリティ・ケア」 日本講演in大分を開催！

世界有数の福祉国家スウェーデンより専門家が来日し、認知症緩和ケアについての講演会を大分豊寿苑が主催します。スウェーデン発祥のハプティックセラピー(手で触れることで、皮膚と皮膚とを通じて行われるコミュニケーション)をぜひ体験してみてください。

【日時】

11月18日(金) 午後2時～6時

11月19日(土) 午前10時～午後3時

【場所】アイネス(大分県消費生活・男女共同参画プラザ)

大分市東春日町1-11

Tel.097-534-4034

【料金】1日参加 500円

2日参加 1000円

【お問い合わせ】

大分豊寿苑(今村)

Tel.097-521-0110